

自己の映像を利用した英語プレゼンテーション改善に関する研究 —フィードバックの有無による自己評価, および映像視聴時に生じる感情の比較—

小林 輝美^{1, 2}

¹ 教育テスト研究センター ² 杏林大学外国語学部

本研究では英語によるプレゼンテーションを改善するには自分自身を録画した映像を撮影、視聴すること、および視聴時にフィードバックを受けることが有効であると考え、検証した。

フィードバックあり群（実験群）は9項目、映像のみ視聴群（統制群）は14項目で1回目よりも2回目のプレゼンテーションの方が有意に自己評価が高くなった。

さらに、映像視聴時にどのような感情が生じるかを検証したところ、フィードバックあり群はパートナーの良かった点、および改善点を確認後、ポジティブな感情が生じ、自分のビデオの改善点を確認後、ネガティブな感情が生じ、映像のみ視聴群は自分の改善点を確認後、ポジティブな感情が生じ、自分の良かった点を確認後、およびパートナーの良かった点を確認後、ネガティブな感情が生じていることが分かった。

フィードバックの有無によって感情をコントロールできる可能性があり、より効果的にプレゼンテーションを改善できる可能性がある。

キーワード：プレゼンテーション，映像，振り返り，自己モデリング，聴衆

1. はじめに

これまでの映像を使用した振り返りの研究では、映像を視聴する方法に注目し、ひとりで視聴するかペアで視聴するか(小林, 2018a), 良かった点のみをフィードバックするか良かった点と改善点をフィードバックするか(小林, 2018b)などが検証されてきた。映像を視聴する際、自分ひとりよりもペアの方がより多くの項目で自己評価が高くなること、良かった点をフィードバックされると自信が付くと思われること、改善点をフィードバックされることで、英語に関する項目で自己評価が高くなることが明らかになっている。また、自己の映像を撮影、視聴しない方が、視聴するよりも自己評価が高くなることもわかっている。

2. 目的

映像視聴だけでなく、フィードバックを受けることの方が自己評価が高くなり、プレゼンテーションを改善するだろうと仮説を立て、検証する。

また、映像視聴時にどのような感情が生じるかを検証する。

3. 方法

関東にある大学に所属する学生 60 名（男性 28 名，女性 32 名）に、ペアになり、お互いのプレゼンテーションを各自のスマートフォンで撮影してもらった。ペアのパートナーからフィードバックを受ける群（フィードバックあり群，実験群）と自己の映像と他者の映像を視聴する群（映像視聴のみ群，統制群）の 2 群に分けた。

実験群はふたりでひとつずつ映像を視聴しながらパートナーに良かった点と改善点を

伝え、自己評価した。統制群はひとりでひとつずつ映像を視聴しながら良かった点と改善点を書き出し、自己評価した。いずれの群も同じ流れを2回繰り返した。

また、どのような感情が生じるかを知るために、2回のプレゼンテーションについて、自分のビデオの良かった点を確認後、パートナーのビデオの良かった点を確認後、自分のビデオの改善点を確認後、パートナーのビデオの改善点を確認後の4回調査した。

練習時と本番時のプレゼンテーションについて19個の自己評価項目を用意し、5段階で回答してもらった。また、どのような感情が生じるかを調査するために9種類について、7段階で回答してもらった。

4. 結果

フィードバックあり群（実験群）の1回目（練習）と2回目（本番）の自己評価、自己の映像と他者の映像を視聴する群（統制群）の1回目（練習）と2回目（本番）の自己評価を対応ありのt検定で比較した。

フィードバックあり群（実験群）と自己の映像と他者の映像を視聴する群（統制群）に生じた感情について対応なしのt検定で比較した。

4.1 フィードバックあり群（実験群）と映像視聴のみ群（統制群）の自己評価の比較

フィードバックあり群（実験群）は5%水準で7項目、10%水準で2項目、2回目の方が有意に自己評価が高くなった。

自己の映像と他者の映像を視聴する群（統制群）は5%水準で14項目、10%水準で3項目、2回目の方が有意に自己評価が高くなった。

4.2 映像視聴後に生じる感情の比較（1回目）

自分のビデオの良かった点を確認後に生じる感情を比較したところ、5%水準で2項目、2群間に有意差があった。「信頼」は実験群の方が高く、「恐れ」は統制群の方が高かった。

パートナーのビデオの良かった点を確認後に生じる感情を比較したところ、5%水準で7項目、2群間に有意差があった。「喜び」、「信頼」、「期待」は実験群の方が高く、「恐れ」、「悲しみ」、「嫌悪」、「怒り」は統制群の方が高かった。

自分のビデオの改善点を確認後に生じる感情を比較したところ、5%水準で3項目、2群間に有意差があった。「嫌悪」、「怒り」は実験群の方が高く、「信頼」は統制群の方が高かった。

パートナーのビデオの改善点を確認後に生じる感情を比較したところ、10%水準で2項目、2群間に有意差があった。「喜び」、「信頼」は実験群の方が高かった。

4.3 映像視聴後に生じる感情の比較（2回目）

自分のビデオの良かった点を確認後に生じる感情の比較したところ、5%水準で2項目、2群間に有意差があった。「信頼」は実験群の方が高く、「恐れ」は統制群の方が高かった。

パートナーのビデオの良かった点を確認後に生じる感情を比較したところ、5%水準で7項目、2群間に有意差があった。「喜び」、「信頼」、「期待」は実験群の方が高く、「恐れ」、「悲しみ」、「嫌悪」、「怒り」は統制群の方が高かった。

自分のビデオの改善点を確認後に生じる感情を比較したところ、5%水準で3項目、2群間に有意差があった。「嫌悪」、「怒り」は実験群の方が高く、「信頼」は統制群の方が高かった。

パートナーのビデオの改善点を確認後に生じる感情を比較したところ、10%水準で2項目、2群間に有意差があった。「喜び」、「信頼」は実験群の方が高かった。

4.3 映像視聴後に生じる感情の比較 (2回目)

自分のビデオの良かった点を確認後に生じる感情を比較したところ、2群間に有意差がある項目はなかった。

パートナーのビデオの良かった点を確認後に生じる感情を比較したところ、5%水準で6項目、10%水準で1項目、2群間に有意差があった。「喜び」、「信頼」、「期待」は実験群の方が高く、「恐れ」、「悲しみ」、「嫌悪」、「怒り」(10%水準)は統制群の方が高かった。

自分のビデオの改善点を確認後に生じる感情を比較したところ、5%水準で3項目、2群間に有意差があった。「悲しみ」、「嫌悪」、「怒り」は実験群の方が高かった。

パートナーのビデオの改善点を確認後に生じる感情を比較したところ、5%水準で1項目、10%水準で1項目、2群間に有意差があった。「信頼」、「怒り」(10%水準)は実験群の方が高かった。

5. 考察

5.1 フィードバックあり群(実験群)と映像視聴のみ群(統制群)の自己評価の比較

小林(2018a)とは異なる結果になったが、実験手順が異なることも要因の一つと考えられる。他者の映像を視聴することが学習の助けになるのではないだろうか。

5.2 映像視聴後に生じる感情の比較

フィードバックあり群はパートナーの良かった点、および改善点を確認後、「喜び」、「信頼」、「期待」といったポジティブな感情が生じ、自分のビデオの改善点を確認後、悲しみ、嫌悪、怒りといったネガティブな感情が生じることが分かった。

映像のみ視聴群は自分の改善点を確認後、「信頼」といったポジティブな感情が生じ、自分の良かった点を確認後、およびパートナーの良かった点を確認後、「恐れ」、「悲しみ」、「怒り」、「嫌悪」といったネガティブな感情が生じていることが分かった。

通常、自己の映像視聴時にはネガティブな感情が生じることが多いことを考えると、他者の存在、ペア学習で相互にフィードバックを与え合うことは自己の映像をより効果的に使用するために役に立つかもしれない。

6. まとめ

フィードバックの有無によってポジティブな感情を引き出したり、ネガティブな感情を抑えたり、感情をコントロールできる可能性がある。感情をコントロールすることでより良いモデリングを行うことができ、プレゼンテーションを改善できるのではないだろうか。

今後の課題としては自己評価と感情の相関関係を調べるなど、更なる分析によってより効果的な方法を模索する必要がある。

参考文献

小林輝美 (2018a) 英語プレゼンテーションを撮影した自己の映像を活用するための視聴方法の検証「1人とペアによる映像視聴時の自己評価を比較」, 学習情報研究論文誌, 第263巻, 第5号: 48-53

小林輝美 (2018b) 自己の映像を利用した英語プレゼンテーション改善に関する研究—フィードバック方法による違いの検証—, 教育テスト研究センター年報, 3: 43-45

